

令和7年度鳥獣被害対策専門組織「テゴス」への 市町の参画意向について

1 要旨・目的

鳥獣被害対策専門組織「一般社団法人広島県鳥獣対策等地域支援機構」（以下「テゴス」という。）の令和7年度の活動に向けて、全市町に対し実施した参画意向調査の結果を報告する。

2 現状・背景

近年、約4億円と横ばいで推移している県内の農作物被害額のさらなる低減を図るため、市町の担当職員では図りにくい技術の蓄積や、市町境を超えて移動や拡大する獣種への広域的な対応が可能な体制として、令和5年9月にテゴスを立ち上げた。

令和6年度から5市町が参画して活動を開始したテゴスでは、市町に駐在する専任者（フィールドアドバイザー（以下「FA」という。））が指導を行った多くの集落で被害抑制の実績を積み重ねつつあり、この成果を市町の担当者のみならず、面談可能な市町長などの幹部へも共有するなど、昨年度参画を見送った理由を解消する内容を提示し、参画への理解を求めてきた。

3 概要

(1) 調査対象

全市町

(2) 調査時期

令和7年1月

(3) 調査結果

ア FAを確保し、テゴスに負担金を支出する意向の市町
10市町

イ テゴスに、専門技術等の必要な業務を委託する意向の市町
3市町

ウ 時期は未定だが、いずれテゴスに参画する意向の市町
7市町

エ テゴスには参画する意向のない市町
3市町

ウ、エの R 7 の参画等を見送る理由（複数回答）

理由	回答数
市町の現行の体制で被害対策に対応できている	6
費用負担に見合う効果が得られるか判断できていない	3
F A が担う業務内容が整理できていない	3
内部調整が難航している	1

(4) 今後の対応

- 見送った理由に挙げられている課題の解決に向け、該当市町とテゴスを交えた協議を継続する。
- 参画メリットの理解を深めるため、テゴスの活動成果を数値化するなど、わかりやすく見える化して共有する。
- 被害金額が少額等を理由に F A の常駐に必要な経費の負担が難しい市町については、対策上の課題に対する業務委託を提案する。